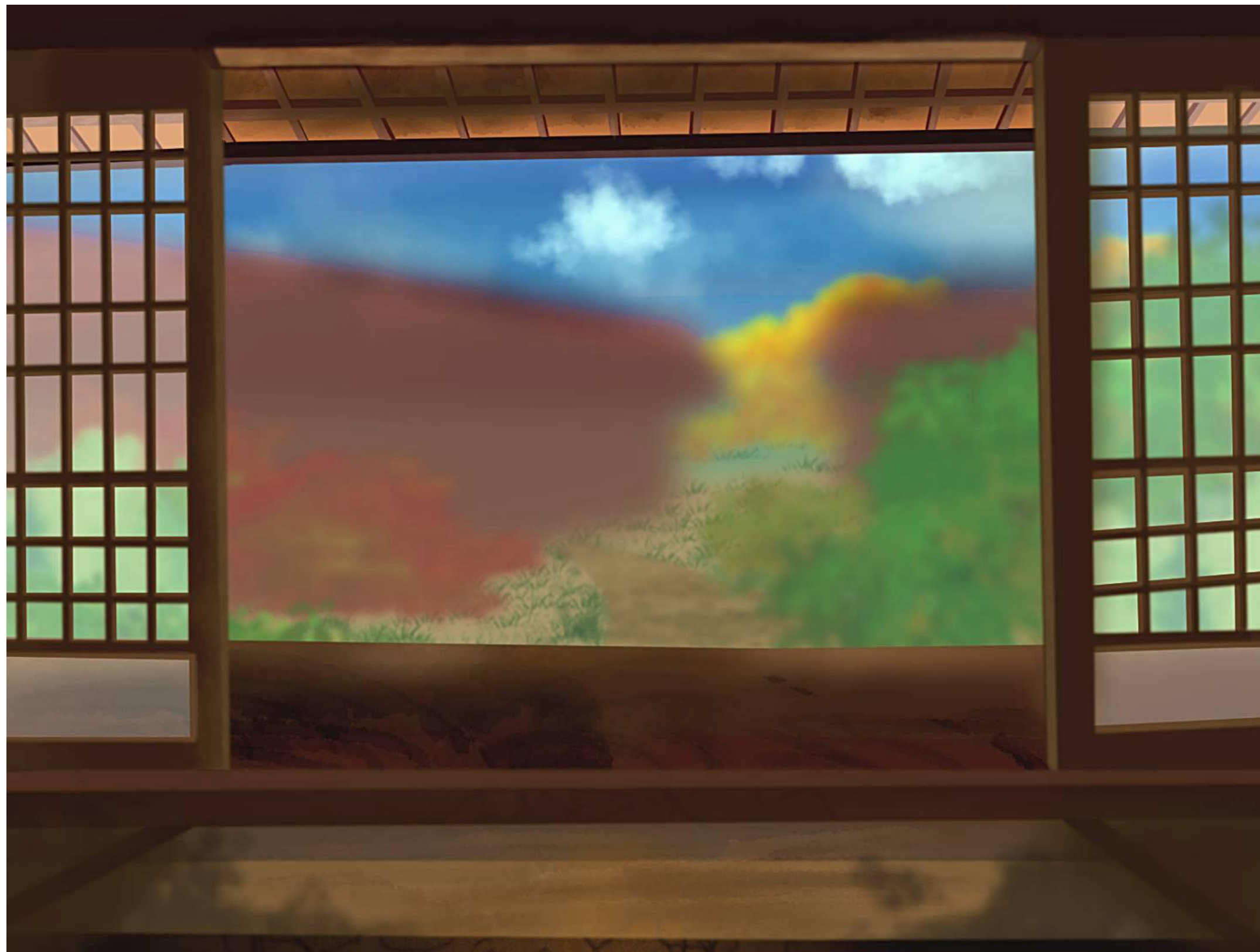




幻想へ誘う ある日の桃源橋

縁景（えんけい）

地面でさえコンクリートに覆われている昨今の日本では、最も近い自然は空であると言われることがある。本当にそうなのだろうか。私たちが足をつけて歩いている整備された地面の数センチ下には、土が横たわっているのに。

日本家屋に訪れると、人々が意識しなくなった“自然”を強く感じる。地べたでもなく椅子でもない、少し低い位置から見る風景は、まるで絵画のように切り取られている。自然を強制的に魅せられているような状況にもなり得るが、私たちはそれに風情すら感じる。

あの世界に入ることができるなら、と思ったことはないだろうか。

縁景はそれを可能にしてくれる。室内と外の間が存在し、ファンタジーと現実というふたつの世界の橋渡しの役割を担っているのだ。